

# 「『ありがとう』を広げていこう」

前栽小学校 6年 中川 穂乃佳

みなさんは、プリントなどの配り物を友達に渡す時、どのように渡していますか？

私達のクラスでは、後ろの席の友達にプリントを渡す時、「どうぞ」と言い、受け取った人は、「ありがとう」と言うやり取りを大切にしています。

なぜ、私達のクラスでは、このようなやり取りを大切にしていると思いますか？

私は、この「ありがとう」という言葉がとても大切だと思っています。「ありがとう」と言われて、うれしい気持ちにならない人は少ないはずです。

そこで私は、「言われてうれしい言葉」を実際にインターネットで調べてみました。すると、ランキングがあり、やはり「ありがとう」という言葉が一番出てきました。それだけ、言われてうれしい人がたくさんいるということです。

また、「なぜ担任の先生は『どうぞ』と『ありがとう』のやり取りを大切にしたい」と思っておられるのだろうと気になり、きいてみました。すると、

「手紙をもらった人も渡した人も、どちらもうれしい気持ちになるからです。」

と、おっしゃいました。

理由を聞いて、私は、「手紙を渡す」という何気ない行動に、「どうぞ」「ありがとう」という「言葉のやり取り」を加えるだけで、渡した人ももらった人もうれしい気持ちになるということは、素敵なことだと改めて思いました。

みなさんは、物を相手から無言で渡されるのと、「どうぞ」と言われて渡されるのとでは、どちらが良いですか？

私は、絶対に、「どうぞ」と言って渡される方が良いです。なぜなら、その方が気持ちがいいし、「どうぞ」と優しく渡してもらえると、自然と「ありがとう」と言いたくなるからです。また、無言で渡すのと、「どうぞ」と言って渡すのでは、相手を感じる印象が全然違います。

だから、「ありがとう」という言葉は、自分も相手もうれしくなる言葉だと思います。

ですが、相手に感謝の気持ちを伝えるべき場面にも関わらず、「ありがとう」が言えない人が、私の周りにはたくさんいます。もしかすると、私の周りだけではないのかもしれませんが。

どうして、こんなに素敵な言葉なのに、言えない人が多いのでしょうか。

1つ目の理由は、「はずかしさ」があるからではないかと考えます。普段、真面目じゃなかったり、ふざけちゃったりしがちな人ならなおさら、真面目に「ありがとう」と伝えることは、照れくさく、はずかしいと思ってしまうのかもしれませんが。

2つ目の理由は、「『ありがとう』と言う習慣が減っている」からではないかと考えます。

私は、今、クラスでおこなっている「どうぞ」と「ありがとう」のやり取りを活かせば、段々と「はずかしさ」も減っていき、プリントを渡す時だけでなく、クラスの中や学校生活の中でも、「ありがとう」という言葉が増えると考えています。つまり、「ありがとう」と言ったり、言われたりする場面を日常的に増やすことが大切だと考えています。

また、自分のために誰かがしてくれたことに、気付く心が大切だとも考えています。せっかく自分のためにしてくれたことに気付かなければ、「ありがとう」と言えませんよね。

実際に、私にもこのような経験がありました。ある日の授業で、授業が終わってもノートが書き切れない時がありました。黒板係さんが黒板の文字を消し始めましたが、半分程度、消したあたりで消すのをやめました。その時の私は気付かなかったのですが、あとから考えると、黒板係さんは、まだ私がノートを書き終えていないことに気づき、さり気なく黒板の文字を残してくれていたのだと気づきました。その時に気付けば、「ありがとう」とお礼が言えたのにと、後悔しました。

「ありがとう」という言葉を増やすためには、少しの気遣いが必要なのだと考えます。そして、その気遣いに気が付く心が大事なのだとも考えます。

私は、「ありがとう」という言葉があふれる優しい生活や社会になればうれしいです。

そのために、まず一人一人が「ありがとう」という気持ちを持ち、相手に伝えることで、1人から2人、3人…と増えていき、クラスから学年、学校全体、社会全体へと、「ありがとう」という言葉の輪を大きく広げていくことの大切さを積極的に発信していきたいです。